

日本共産党

青梅市議会議員

井上 たかし

6月の市議会で質問

※6月12日に行われた市議会の一般質問から紹介します



新市民ホールを含む複合施設を建設する予定地(いわゆる「ケミコン跡地」)は、市役所の斜め向かいにあります。現在は市の臨時駐車場のほか、休日診療所や福祉センター、健康センターが設置されています。

いっこうに見えない新市民ホール 市民参加で計画推進を！

新市民ホールを含む複合施設の建設は、現在のスケジュールでは2027年オープンの予定とです。旧市民会館が老朽化で使えなくなり、青梅市には市民ホールがない状態が10年も続くこととなります。

一度、「平土間式」の演劇も演奏もできないホールの計画をつくらうとして反対運動が起こり、計画を見直し予定を延期した経緯があるのですから、今度こそよいホールをつくり、この間の利用者・団体の苦勞に答えることが必要です。

そのためにはなんと言っても「市民参加」が重要です。私は羽村市の「ゆとろぎ」が全市民に呼びかけて「市民会議」を設置し、9か月間に20回も会議を開催(世話人会含む)したことを紹介し、青梅市も市民の声を中心にホールをつくるべきだと求めました。

市は「今年度中に基本計画をつくる」としていますが、それならば、なおさら急いで市民の声を聞くべきです。これからの取り組みが重要です。ぜひ、みなさんも市に声を届けてください。

児童館の建設は市内全域を視野に

市内1ヶ所では足りません！

東京23区、多摩26市、すべてにある児童館が青梅市には1ヶ所もありません。市は、新市民ホールの複合施設に「大型児童センター」を入れる予定としていますが、現在の予定はその1ヶ所のみです。市長は「利便性の高い場所」と言いますが、青梅のほとんどの子どもたちにとっては、「遠すぎる場所」です。

私は、来年度以降につくられる「こども基本条例」や子育ての計画にきちんと青梅全体を視野に入れた児童館整備計画をつくること、その計画は子どもや子育てにかかわる市民に参加してもらってつくることを求めました。

コミバスも早期に

6月議会では共産党の藤野ひろえ議員がコミバス問題を質問しました。市は「補助交通」でなんとかしようと考えていますが、鉄道・バスが走っていない地域があまりにも広く、それだけでは解決できません。

コミバスを走らせてこそ、市民の足を守ることが出来ます。引きつぎ、1日も早い運行を求めます。

少子化対策・保護者負担軽減

学校給食無償化

青梅市
でも早く

「無償化」の流れはさらに加速

15区1市が実施、3区が検討



新宿区 今年8月から「第二子以降」を無償化

大田区 今年6月から実施

品川区 今年度から実施

世田谷区 今年度から実施(来年以降は検討)

中野区 検討中

杉並区 検討中

豊島区 検討中(年度内に実施と表明)

練馬区 今年度から「第二子以降」を無償化

江東区 今年10月から実施

荒川区 今年度から実施

文京区 今年9月から実施

中央区 今年度から実施

台東区 今年1月から実施。4月以降も「当面実施」

板橋区 今年度の2・3学期は無償化

北区 今年度から実施

足立区 今年度から「中学生」を無償化。

葛飾区 今年度から実施

江戸川区 今年9月から実施

狛江市 今年度から「第三子以降」を無償化

※以前から実施 奥多摩町、檜原村、三宅村、利島村、御蔵島村

青梅市も態度が変化

青梅市では、これまで「物価高騰分」や「2か月のみ」など部分的な給食費の負担軽減策を行ってきました。これは必要なことですが、たとえば「国や東京都の責任で無償化することを求めている」といった質問には、「学校給食の食材費は保護者の負担とされている」として、「その考えはありません」と冷たい姿勢をとってきました。

ところが、この6月議会では、日本共産党のみならず、他の会派からも「無償化」を求める声が上がりました。ついに市長や教育長の態度が変わったのです。国や都に無償化を求めること、市としてさらに積極的な無償化に向けた取り組みを検討することを示す態度が見られました。

深刻な少子化、家計の悪化のもと、世論をさらに広げ、給食無償化の流れを全国に広げていきたいと思います。そして、青梅市でも1日もはやい実施を！

日本共産党

青梅市議会議員

井上 たかし



「学校のトイレ新聞」ぜひお読みください



なんでも相談・法律相談
いつでもご相談を

090-8489-5260

inouetakashi99@gmail.com



@inoue_9

活動報告

2023年6月19日号